

F C T 第 20 回 メディア・リテラシー 研修セミナー 報告

2000 年に『Study Guide メディア・リテラシー入門編』を発行して以来、継続して開催している研修セミナーを、今年は 8 月 26 日（土）～27 日（日）に早稲田大学キャンパスで実施した。

参加者は首都圏をはじめ、北海道、青森県、山梨県、大阪府、京都府など各地から 21 人が集まり、所属も大学生・大学院生を中心に、教員、公務員、会社員、N P O 関係者などさまざままで、メディア・リテラシーの活動の広がりを期待できるセミナーとなった。

○ プログラムの概要～1 日目

セッション 1（S 1）「私・私たちのメディア史」は、ワークショップ形式で子ども時代のメディアとの関わりを持ち寄り、社会化するセッションである。日本の高度経済成長期には「スポ根もの」が流行り、実際にアニメを見てサッカーをしたなどの体験談、スタジオジブリやディズニー作品は世代が違っても視聴しているという共通体験、アニメなどからジェンダー観を学ぶのか、逆に、実社会を反映してジェンダー表現があるのかなどの話し合いもあり、初対面にも関わらず多様な参加者により対話が深められた。

S 2 「メディア・リテラシーを学ぶ」は講義形式で、「メディア社会」を生きる力としてのメディア・リテラシーの定義、基本概念などの解説をする。さらにマイノリティ市民の視座からメディアを読み解くことの意味や、コミュニケーションする権利とのかかわりでメディア・リテラシーをとらえることについての説明があった。

S 3 「CMで学ぶ映像言語」は、アサヒ飲料の「三ツ矢サイダー」CMをテクストにして、映像言語を学ぶセッションである。商品の「さわやかさ」を登場人物、色調、C U、テロップ、効果音、B G Mなどの映像言語でいかに表現しているか、また、ターゲット・オーディエンスとの関係に繋がるディスカッションもおこなわれる。

S 4 「ニュースの構成を読み解く」では、8 月 6 日「広島原爆の日」のニュースを、N HK 総合「ニュース 7」とT B S 系「N スタ」の 2 番組を比較しながら分析をした。同じ 1 日であっても取り上げる人物やその発言、カメラワークなどの技法の違いによってそれぞれの局が構成する「現実」を読み解いた。資料とし、2 番組とも扱っていない「グテレス国連事務総長メッセージおよび代読した中満国連上級代表」関連の毎日新聞記事を配布した。

○ プログラムの概要～2 日目

S 5 「インターネットのニュースバリューを考える」ではポータルサイトの新着ニュースを各自がスマホで調べニュース項目をワークシートに記入した。その後、グループでポータルサイトのニュースについて、ニュースソースは何か、利用者は書き込みができるかなどポータルサイトの種類による違いも話し合った。さらに「現実」をどのように構成しているかをマスメディアと比較しながら分析した。編集作業のないネットニュースには、ユーザーの声が何らかの形で表れるので、「ネットニュース+書き込み」で全

体の「構成」がされているのではないかという見方も示された。

○2日目はセミナーを午前中に終了し、午後はFCT創設40周年記念フォーラムを開催した。

ファシリテーター西村寿子、田島知之、森本洋介、佐藤和明、山田啓明 記録新開清子